



年間第 3 主日 (ルカ 1:1-4,4:14-21)

イエスは聖書の言葉を巻物から飛び出させる

「イエスは巻物を巻き、係の者に返して席に座られた。会堂にいるすべての人の目がイエスに注がれていた。そこでイエスは、『この聖書の言葉は、今日、あなたがたが耳にしたとき、実現した』と話し始められた。」(4・20-21) イエスは会堂内にいるすべての人が注目している中で、あっと驚く言葉を語りました。わたしたちも、集まった人々と同じように、イエスの言葉に耳を傾け、取るべき態度を考えましょう。

とうとう 26 日 (火) はマラソン大会となってしまいました。派手なウェアを用意した割にはたいした練習も積めなかったもので、本当に冷たい視線を浴びながらのレースになると思います。それでも、当初の目標通り、足を止めず、最後まで完走して帰りたいと思います。

黙想会が 2 月下旬に控えています。今年は久しぶりに誰かにお願いせずに自分で説教師を務めようと思っています。説教案はほぼ固まりまして、「信仰に生かされ・信仰を生き・信仰で次の世代を生かす」という信仰の伝承を念頭に置いて話をしようと思っています。

わたしが黙想会を務めるときはいつもそうですが、説教の原稿をプリントにして準備する予定です。また、前もって録音して、たとえば寝たきりの人、体調が悪くて参加できない人のために自宅で話を聞くことができるように CD も用意しようと思っています。黙想会の時にもう一度呼びかけますので、必要な人は利用してください。余ったらどこか別のところで配るつもりです。

福音朗読に移りましょう。当時会堂で聖書が読まれるというのは、読まれた聖書の解釈をするということでした。イエスも聖書の解釈を語るのだろうと思って人々は注視していたでしょう。けれどもイエスの口から出たのは、人々の予想をはるかに超える言葉でした。

イエスが読まれた巻物はイザヤ書です。イザヤは預言者でしたから、当然イエスは預言の解釈をするものだと思っていたでしょう。ある意味いきなりイエスは解釈を飛ばして、「この聖書の言葉は、今日、あなたがたが耳にしたとき、実現した」(4・21) と宣言したのです。

預言はたしかにいつか実現するものです。ただ会堂にいる人々は、まさかそれが今ここで実現すると語る人が現れるとは思ってもみなかったでしょう。「この人は威勢がいいなあ」とか、「たいした度胸だ」このようにしか受け止められなかったのだと思います。

わたしたちは、前提なしにイエスの言葉に耳を傾けたいと思います。「この聖書の言葉は、今日、あなたがたが耳にしたとき、実現した。」預言の言葉は、それまでは巻物の言葉でしたが、イエスが生きた言葉、巻物から飛び出す言葉に変えてくださるのです。

巻物から飛び出す言葉とは、例えば飛び出す絵本のようなものです。今でもそのような絵本は手に入りますが、子供の頃にそういう絵本を読んだ人もいます。飛び出す絵本のおかげで、物語はさらに楽しい

もの、魅力的なものになります。子供にとっては、飛び出す絵本は絵本の世界から現実の世界に飛び出したように感じたかもしれません。

イエスは預言の言葉を巻物の世界から現実の世界に飛び出させてくださいました。会堂で読まれたのは次の個所でした。

「主の霊がわたしの上におられる。貧しい人に福音を告げ知らせるために、主がわたしに油を注がれたからである。主がわたしを遣わされたのは、捕らわれている人に解放を、目の見えない人に視力の回復を告げ、圧迫されている人を自由にし、主の恵みの年を告げるためである。」

(4・18-19)

イエスの宣言は、場面が飛び出す絵本になって、楽しい絵本だったねで終わるではありません。実際に、捕らわれている人が解放され、目の見えない人に視力の回復がもたらされ、圧迫されている人が自由になり、主の恵みの年を告げられるということです。

だれが捕らわれているのでしょうか。目が不自由なのでしょうか。圧迫されているのでしょうか。わたしたちではないのでしょうか。罪に縛られ、信仰の価値が見えなくなり、信仰を表に出せば好奇の目で見られる。イエスはそんなわたしたちを解放し、自由にしてくださいます。

私事ですが、あと二ヶ月くらいでわたしは50歳になります。社会で働く50歳の人々との違いは、一度も就職したことがないということです。自分の能力を元手に、生活を切り盛りしてきた経験がないのです。わたしが生活させてもらっているのはただ一つ、イエス・キリストを宣べ伝えることだけです。イエスが今も人を解放し、自由にしていると確信しているので、この生き方を生涯貫いていきます。

20年も自分の罪を告白できなかつた人が告白する場面に立ち会いました。長く寝たきりで病苦を耐えて旅立った、その妻の苦しみの意味を悟って神に感謝を捧げる人がいました。教会の人間関係で心を閉ざし、教会に通えなくなった人が、インターネットにわたしが公開している主日の説教を受け取るようになり、慰めを受けている人がいます。こうしてイエスが今も捕らわれ、圧迫されている人を解放する姿を何度も見てきたのです。

黙想会のお話を最初にしました。黙想会は人を解放するイエスの力、人を自由にする力を体験する良い機会になると思います。黙想会でいったん時間を止めることで、自分を見つめ直し、信仰を一步前に踏み出させてくれる力をいただけたと思っています。

イエスは、世の中の常識にがんじがらめになって信仰の価値を表に出せないわたしを解放し、自由にしてくださいます。「この聖書の言葉は、今日、あなたがたが耳にしたとき、実現した。」わたしたちの中にこの言葉を響かせましょう。そして、わたしが出会う人に、この言葉は信用できると、それぞれの体験を重ねて伝えましょう。今日イエスの言葉を必要としている人が、島内にもまだまだ多くいらっしゃいます。